

病害虫の発生は全般的に少なく、生育は概ね順調です。盆前の大雨により一部圃場で畔の崩壊や土砂の流入などがありました。全体的には大きな被害はありませんでした。なお、8月まで一貫して高温傾向で経過しており、今後もこの傾向が続けば、収穫時期は例年より早まる**と思われます。早めの作業を心掛けてください。**

8月31日 現在	気温(℃)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	平年	今年	平年差	平年	今年	平年比(%)	平年	今年	平年比(%)
6月	22.6	24.4	1.8	136.8	151.4	110.7	243.3	243.5	100.1
7月	26.8	29.0	2.2	174.9	307.0	175.5	294.1	91.0	30.9
8月上旬	28.3	29.1	0.8	73.8	59.1	80.1	49.5	124.0	250.5
8月中旬	27.8	29.0	1.2	65	90.5	139.2	73.1	100.5	137.5
8月下旬	26.8	29.0	2.2	64.1	97.5	152.1	88.4	25.0	28.3

1. 収穫までの水管理

できるだけ遅くまで間断灌水を継続し、粒を充実させましょう！

- ・ 出穂期後1週間ほど過ぎたら間断灌水（入水し自然に水が無くなるまで溜めておき、1～2日程度水を入れない状態を保つ）を行いましょう。
- ・ 収穫間際（出来れば収穫の1週間前）まで間断灌水を行い、落水時期を遅くしましょう。収穫直前まで、籾の粒は充実します！

台風対策

台風シーズン到来です。強風による脱水症状や葉先枯れ、さらには葉先の裂傷などで光合成能力が低下し、くず米が増える懸念があります。**台風襲来時は必ず深水にして稲を保護しましょう。**

稲刈り間際の場合には、台風襲来前に稲刈りを終わらせましょう。

台風対策は前もって行い、**風雨が強い時間帯に圃場に行かないよう**にしましょう。

2. 病害虫の発生状況

(1) イネカメムシ、斑点米カメムシ類

イネカメムシについては、地域・圃場によって発生量にバラツキがあったようですが、心配された出穂期の集中飛来は見られませんでした。

斑点米カメムシ類は例年より発生が多かったため、イネカメムシと同時に防除を行った圃場も多かったのではないかと思います。

なお、畔草刈りは出穂後3週間程度経過してから行いましょう。草刈りが早すぎるとカメムシに乳熟期から糊熟期の籾を吸われ、斑点米が発生します。



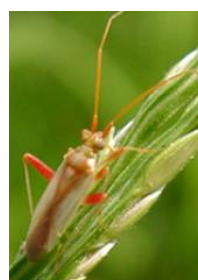
イネカメムシ



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



アカスジカスミカメ



ミナミアオカメムシ

(2) いもち病・紋枯病

いもち病は全般的に少発生です。紋枯病は一部発生が目立つ圃場もありますが、全般的には並発生です。



穂いもち



紋枯病

(3) トビイロウンカ(秋ウンカ)

現時点で、管内の圃場においては確認できておりませんが、最後まで気を抜かず稲刈りまで田の中を観察しましょう。



トビイロウンカ



坪枯れ

3.収穫適期について

籾の8割程度が黄色になった時期が収穫適期です。適期収穫に努めましょう！

(1) 収穫適期予想 出穂期後の積算気温(9月3日以降は平年値)による収穫適期予想

品種	田植	出穂期	収穫適期予想
夢つくし	5/17	7/28	8/29～9/3
	5/24	8/1	9/1～9/8頃
	6/10	8/8	9/11～9/17頃
元気つくし	5/17	8/2	9/4～9/10頃
	6/1	8/9	9/13～9/18頃
	6/7	8/10	9/14～9/19頃
	6/14	8/15	9/20～9/26頃
	6/21	8/18	9/24～9/30頃
ヒノヒカリ	6/1	8/21	9/28～10/4頃
	6/7	8/22	9/29～10/5頃
	6/14	8/25	10/3～10/9頃
	6/21	8/27	10/6～10/12頃
ヒヨクモチ	6/14	9/1	10/17～10/23頃
	6/21	9/4	10/18～10/25頃

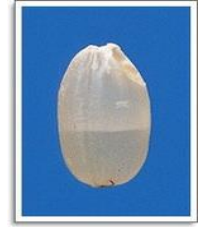
田植え日が同じでも、立地条件、水管理、施肥状況などで出穂期は2～3日変動します。今年は特に圃場内、圃場間における出穂のバラツキが大きいようです。ご自分の圃場を確認して、上記表を参考に稲刈りを行って下さい。

※今後も高温傾向が続いた場合、上記より収穫適期が早まる可能性があります。

4. 等級を低下させる要因

(1) 胴割れ（立毛胴割れ）

早期落水した場合に、田んぼの中で胴割れが発生します。**できる限り落水時期を遅くし、適期収穫**を行いましょう。収穫日近くまで水をためておくことで、粒張りも良くなります。刈遅れも同割れ粒が発生しやすくなります。



【胴割れ粒】

(2) ヤケ米

収穫した籾を炎天下に置いていたり、コンバイン袋に入れて放置していると、カビや細菌等の微生物の影響により、ヤケ米が発生します。

収穫後は出来るだけ早く（出来れば収穫後2～3時間以内）乾燥機に入れましょう!!

5. 収穫機の掃除と収穫期の安全対策

清掃や点検を徹底し、事故を防ぎましょう!!

- (1) コンバインや乾燥機・籾摺機の清掃を十分に行い、異物等の混入や、コクゾウムシ等の害虫が発生しないようにしましょう!!
- (2) コンバイン作業は、巻き込まれ事故や転倒・転落、**移動時には周囲の安全確認を十分に**行いましょう！作業中に**詰まったらエンジンを切り点検する**事を徹底しましょう！
- (3) コンバイン等を**バックさせる場合**には、周囲に知らせるため**ホーン**を鳴らしましょう。

6. 乾燥について

適正水分に乾燥するために（水分 15.0%仕上げの場合）機種・メーカーにより異なります

青米粒数(100粒中)	乾燥仕上設定水分	乾燥停止後の水分変化
0-5粒	15.5-15.1%	0.5%程度乾く
6-10粒	15.0-14.6%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.5%	0.5%程度戻る

① 上表のように、青米の入り方によって乾燥機を止めた後に水分が増減します

青米の入り方によって、乾燥仕上設定水分を調整しましょう。乾燥機の水分計と手持ちの水分計には誤差がある事があります。

水分18～19%時に一度乾燥機を6時間程度止め、籾水分を均一化しましょう。

その後、**16%時にもう一度止め、手持ちの水分計で水分を測定し誤差を把握**しましょう。

水分計は土井倉庫・多々良支店・月隈支店にもありますのでご活用下さい。

② **張込量に見合った穀物量ダイヤル**に設定しましょう。

基本的な事です、張込量が半分ぐらいであるにも関わらず、穀物量ダイヤルが半分以上を遥かに超えている。そんな事はありませんか？

それでは、熱風温度が高くなり、過乾燥になるだけでなく胴割れも発生してしまいます。

7. 米の出荷について

令和7年産米の集荷に向けて**新規出荷者の募集**を行っております。

また、同時に**令和6年産以前の米の集荷も行っております**。古米は出荷して頂き、皆様方には、新米を味わっていただきたいと考えておりますので、是非ご出荷下さい。

集荷に関するお問い合わせは営農生活課へお願いいたします。

JA 米栽培基準について

種子更新・農産物検査の受検・栽培管理表の記帳の 3 つの要件を満たしたお米を、JA 米として扱います。

- ① 肥料・農薬生産資材は原則として、こよみ・資材の注文票に記載されているものを使用すること。記載されていない資材等を使用する場合は、使用基準を厳守すること。
- ② 適期適量施肥及び農薬の適正使用と飛散防止対策を徹底すること。
- ③ 適期収穫に努め、米袋で出荷する場合は表示が正しいか確認すること。
- ④ 栽培履歴に記入漏れや間違いがないか確認すること。
- ⑤ JA 米とそれ以外を区分して JA に出荷すること。

地球温暖化防止 稲わらは秋にすきこみ、腐熟を進めましょう!!

(田植え後、メタンガスの発生が少なくなり、**地球温暖化防止**に役立ちます。)

営農情報について

①最新の情報を LINE でお届けいたします。

営農情報（稲作だより等）を「JA 福岡市東部 営農情報」の LINE でも発信しております。**下記の QR コードから LINE のご登録をお願いいたします。**



②稲作だより等の情報が下記の QR コードよりご覧いただけます。



※今後の発行スケジュールですが、「**稲作だより 4 号**」を**年末**にと考えておりますので、ご参考下さい。

ー内容に関する問い合わせは営農生活課 または各支店の営農経済担当者へー